

## 伸びる子に育てる秘訣2

親や教師が注意し励ますことで、一時的に集中して勉強し、その結果いい点をとることもあります。しかし、それが長続きせず元に戻ってしまう子どもが意外と多いという事実は否定できません。「やればできる」のに続けることができないのです。大人は、「やればできること」は過大評価しますが、「続けてできること」は過小評価しがちです。「やればできるのだから、そのうちなんとかなるだろう。」と考えるのです。しかし長続きしないと「なんともならない」ことになってしまいます。「継続は力なり」という諺もあるように、続けて努力できる能力は、他のどんな才能にもまさる大きな力なのです。しかもこの力は先天的能力ではなく、生活の中で獲得されていく力なのです。

この持続力を家庭でつけるにはどうしたらよいか。まずは、親との約束を守らせることを徹底しましょう。「自分の食べた食器は自分で台所に持っていかせる」でも「学校から帰ったらすぐに自分のカバンを机の上に置かせる」でもかまいません。そして「よくできた」なら肯定的な言葉をかけ続けましょう。

さらにこれを「机に座る習慣」につなげていくことが大切です。はじめのうちは、マンガを読んでも、絵を描いていてもかまいません。とにかく決まった時間に机に向かう習慣をつけることです。机に向かう習慣は、高校生になってからではまずつきません。小中学生の間につけることが大事なのです。こうして持続する力を身につけた子どもと、つけていない子どもとは将来大きな開きがでてくるのです。

